



「西の魔女が死んだ」を読んで

広尾中学校 一年一組 馬場 朱里

私は最初この本を見てもあまり読みたいとは思いませんでした。なぜかというところ「西の魔女が死んだ」なんて暗い題名だなと思ったからです。でも、本の後ろに書かれているあらすじに「魔女の修行の肝心なめは、なんでも自分で決める、ということだった。」と書かれていて、魔女の修行ってそんなことをするのかなと思ってこの本を読みました。

主人公のまいは学校でなかなか女子の輪に入れず、だんだん学校が苦痛を与える場に変わっていきます。そこでお母さんが考えたのは、おばあちゃんの家で少し休んでもらうことでした。まいは、おばあちゃんと暮らすうちに自分の家系が昔から不思議な力をもっていることを教えられ、魔女修行をすることにします。

不思議な力を持っていたのはおばあちゃんのおばあちゃん、つまりまいのひいひいおばあちゃんです。そのひいひいおばあちゃんは、予知能力と透視に長けていたようです。私は予知能力を持ってしまったら毎日の新鮮さが無くなってしまうらなくならないかと思いました。

魔女になるためには意志の力を鍛える必要があります。何でも自分で決める。少しずつでも努力をする。そうすることが大事とまいはおばあちゃんに言われました。私は自分で何もかもを決めることが苦手です。お土産を決めるのも苦手だし、「夕飯何がいい?」と聞かれても「なんでもいいよ。」と答えてしまいます。でも、大人になるうちに自分で決

めないといけない場面も出てくると思います。おばあちゃんはまいが大
人になった時のために魔女修行として教えていたのかなと思いました。

このお話では所々に「人は死んだらどうなるの」とか「おばあちゃんは、
人には魂っていうものがあると思っています」などの人の死や魂に関する
話がたくさん出てきます。私は特におばあちゃんがまいに「おばあち
ゃんが死んだら、まいに知らせてあげますよ」という約束を守って教え
てくれる場面にグッときました。二年後、魂になったおばあちゃんはま
いに汚れたガラスをなぞり字を書くことで知らせます。「ニシノマジヨカ
ラヒガシノマジヨへ オバアチャンノタマシイダツシユツダイセイコウ」と。
二年たつても、魂になつても、約束を忘れずに伝えてくれたおばあちゃ
んに感動しました。

その話の後、まいは普通の生活に戻っていきます。魔女修行で鍛えた
意志の力で自分の意見をしっかりと言うことができるようになりました。
まいは、少し意志の力が弱かっただけで普通に周りの友達と遊べる子だ
つたんじゃないかと思いました。

私がこの本を読んで学んだことは二つあります。一つ目は、意志の力
の大切さです。最初はすごく落ち込んだり、ネガティブになっていたま
いも、おばあちゃんから魔女修行を受けてからは前向きになって自分
と向き合えるようになっていました。精神を鍛えていくのはとても大変
だけど、毎日小さなことでもいいから自分で決めるようにするといいの
かなと思いました。

二つ目は、魂の存在についてです。私はこれまで、人は死んだらそこで

終わりでもできないと思っていました。残された側もとても悲しい気持ちでお別れする。そう思っていました。私がおじいちゃんとお別れた時も布団の中で悲しくて泣いていました。でも、このお話ではおばあちゃんとお別れの場面でもまいはありつたけの「大好き」の気持ちでお別れています。この場面を見て、人は死んでもお別れじゃなくむしろ魂との距離が近くなっているんじゃないかと思いました。

このお話は私にたくさん事を残してくれました。一つ、前向きに物事をとらえ自分の意志で決めていくこと。二つ、魂とお別れはありつたけの「大好き」の気持ちを持つてすると魂との距離が近くなること。三つ、「本を読むことの大切さ」です。なぜ、本を読むのが大切だと思うのかというと、この本を読まなかったら私は自分で決めるのが大事と強く思わなかった。この本を読まなかったら、魂についてのこの意見を知らなかった。この本を読まなかったら、私はこの感想を持ってなかった。本を一冊読むだけで自分の知らなかったこと、学んでいなかったことをこれだけ学べるので私は本を読むことが大切だと感じました。

これからは「この本、気になるな。」と思ったら積極的に読んでみて、さらに学んでいきたいと思えます。